日本篆刻家協会

日本篆刻家協会ニュースレター　2021.10.4 第8号
発行　日本篆刻家協会　　会長　尾崎蒼石　理事長　井谷五雲

日本篆刻家協会　563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203　　編集　理事 北田成磊

二〇二一年に向かって

理事長　井谷五雲

皆さんいかがお過ごしでしょうか。日本篆刻家協会の二〇二一年度も終盤を迎えました。コロナ禍により多くの事業・行事が中止などの憂き目を見ました。来年度以降に捲土重来を期しましょう。

現在、協会執行部では役員改選案を含めて、来年度に向けての様々な事柄の計画準備が審議されています。それらは企画委員会・常務理事会と審議を重ね、新年の理事会及び総会で決定される運びとなります。現在は来年度の清新で機能的で重厚な組織づくりと事業を目指して、定期的に運営委員会を開催しているところです。

本協会は事業局と総務局の二局長制を取っており、両局長が様々な活動の原案を作成整理し、或は問題を提起したりした後、非公式ではありますが、必要会員・人士が集まっての運営委員会を経て、実施に到ります。基本的で重要な問題等は運営委員会の後、常任顧問・会長・正副理事長及び代表理事で組織される企画委員会で審議されます。極めて民主的に運営されていると自負しておりますが、このような民主的方法によって運営することは時間と手間のかかるものです。皆さんの要求に迅速に応えることができない場合もあるかと思います。何卒ご寛恕願いたいと思います。

私たちが愛好し取り組む芸術的・伝統的所作は、誰か一人の、或は一塊のグループの、独断専横に陥りやすい傾向があります。誰々先生がどうだとか、現在の書道界がどうだとか、といったことが多く取沙汰されます。そこに身を置いて活動する我々は、真の目的を常に自覚する意識を持たなければなりません。しかし、いかに良いシステムであっても日常的に点検が必要で、放置すると忽ち老朽化を引き起こすものです。それらを肝に銘じて、真の篆刻の楽しさを実感できる組織にしていきたいものと思っています。作品の制作・研修・交流の三本柱を今後も堅持していくために、会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

さて、このニュースレター第8号が皆さんのお手許に届く頃、スタッフが分刻印譜の整理に追われている頃でしょうか。丑年に因んだ『蘭亭雅会』分刻印譜を作成するという提案に対しまして、実に三二五人の参加者が名乗りを上げて下さいました。本年中に何とか完成させ、新年総会時には皆さんにお披露目できるようにと、鋭意努力中です。しかし、整理段階で再作成をお願いしました方も多くおられました。申し上げにくい事ではありますが、私の立場上、また会員の芸術水準の向上のため、以下のことを申し上げなくてはならないようです。口幅ったい事ですがお聞き届け下さい。

一、印影（印面作成）について

①　印文内容の吟味と決定

②　丁寧な検字（校字）による用字の決定

③　布置校正（構成・章法）の妙

④　刻技の妙

⑤　鈐印（押印）の精度

二、側款（辺款・印跋）について

①　刻す語句（あるいは文）の作成は簡潔且つ風趣豊かな、或は意味深いもので、文学的価値の高いものでありたい。

②　刻技の妙

③　採拓の技術

篆刻はこれらの綿密な作業を経て行われるのです。たった、三センチ四方前後の小さな印石にこれらの事柄を踏まえて、丹精込めて制作するのですから、日頃からの錬磨と研究が必要です。皆さんと皆さんの指導者との厳しい対峙が必要です。仲間同士の忌憚のない相互研鑽が必要です。その結果として作品の良し悪しを含めて、完成の充実感と醍醐味を体感することでしょう。

今回は決められた印文が割り当てられた結果、初級者に対しても大変難しい字数や文字が割り当てられていますが、検字については文字（篆書）の間違いが多いのには閉口しました。また使用されている字典が『篆刻字林』などの安易な字典の使用に頼っている作品が大変多かったように思われます。本来の篆書の美しく魅力的なフォルムの習得には、篆書の手習いは不可欠ですが、多くの良い字典を机上に置くことも必要でしょう。篆刻は小技でスケールの小さなものです。それ故に精度の高い緻密な作業が要求されます。いかに大胆に見える作も緻密な計算の上に成り立つものと心得たいものです。

側款は残念ながら無残なものでした。その語句や文が観念的で好ましくないものが多いのは仕方ないとしても、漢文の文法的約束事の「いろは」は心得ておきたいものです。同様に採拓の技術も余りにも拙いものが多かったのは、本協会の現実を見せつけられる思いで残念でした。これらのことについては中央研でのテーマとして取り扱い、皆さんと共に解決していきましょう。

とは言え、完成の待たれる『蘭亭雅会印譜』です。その完成は新たな年明けとともに、第三十八回日本篆刻展の告知とともに、私たち前に姿を現してくれます。

▼二〇二二年　月例課題一覧

月	語句	出典	意味
一月	大吉祥	荘子	非常にめでたいこと
二月	特健薬	張彦遠	とりわけ健康によい薬
三月	散逸懐抱	空海・性霊集	発想の展開を自由にする
四月	取法四時	空海・性霊集	手本となる法則を四季に求める
五月	象形萬類	空海・性霊集	文字の形態を森羅万象に具象化する
六月	放懐	武元衡	自由気ままにすること
七月	書以筆為質	劉熙載	書は筆を実質とする
八月	以墨為文	劉熙載	墨を文飾とする
九月	破凡	大宝積経巻	凡俗を破る
十月	能亦好	荀子	君子は能力がありよいことである
十一月	逃禅	杜甫	酒に酔って禅の教えから脱線する
十二月	癸卯		二〇二三年の干支

応募要項

①会員CD、資格、姓号を必ずお書きください。
※未記入の場合は審査対象外となります。不明の場合は事務所にご確認ください。
②印の大きさは一寸以内、用紙は協会指定印箋（篆社印箋も可）
③応募は各月一人一点、締め切りは各月末日必着

送付先
〒五六三―〇〇三二　大阪府池田市石橋二―二―一〇　牧野ビル二〇三　日本篆刻家協会「月例課題」係
お問い合わせ　協会事務所　〇七二―七六〇―三八五二

2月課題　「平為福」

役員（山下方亭 選）

江涯

葭舟

誠

捷華

呉山

○浅野江涯　寺田知了
○平中葭舟　松永六朗
○大原誠　川崎白水
○秋山捷華　中本管城
○田原呉山　畑間青露
萬谷碧凰　宮野宗雄
松本清苑　山村千秋
木村容庸　計五七人

此度の応募はコロナ禍の為か充実した作が多く五点を選ぶのには苦労した。古典の香りや雅味香る作に眼がいき、いずれも秀作であった。流石に役員の作であり、今後も期待したい。

常任委員（池田泥異 選）

景香

悦治

戯石

忠義

紅珠

○音川景香　松岡泰南
○兼子悦治　中島敬次
○岡崎戯石　中森紫香
○髙橋忠義　安田幸恵
○田中紅珠　奥島極浦
白幡雪峰　永井恵子
小松五岳　武田黎秀
澁谷春壽　計四五人

書画篆刻等に勤しんでおられる方はよく「自然な感じで。」と表現されます。では、「自然」とは何か。養老孟司先生は、「人が意識的に設えたものは自然ではない。」と言われます。考えさせられます。

委員（井後雅堂 選）

勝山

一葦

鷺雪

英昭

徹人

○大野勝山　大崎渓白
○片岡一葦　境山正甫
○矢場鷺雪　山本智子
○小林英昭　相川良孝
○山中徹人　内田哲舟
寺地寿和　田邊進
八木正明　山下登雲
松村信夫　計四一人

課題が三文字ということで工夫の跡が見られました。平・為福と分けた際に、中心で分けてしまうと平が大きく見えます。一文字の方は少し狭くすることでバランスがとれます。また、詞句印での回文は誤読の恐れがある為、推奨しません。

会員（伊佐治祥雲 選）

朴園

淳

晶石

正江

龍泉

○城本朴園　久下浩登
○井形淳　伊藤光崖
○誤晶石　吉田草心
○平子正江　大喜多惠子
○池内龍泉　広森勝竹
林正樹　指輪桂舟
秋吉隆夫　佐野真咲美
吉田哲幸　計二九人

画数に差がある三文字の課題で布字構成に苦労されたあとがみられます。長方形で一行印での成功例が何点かありました。一字・二字の二行にした場合「平」の縦線の処理によって随分印の印象が違ってきます。最後の押印にも神経を使って丁寧に。

3月課題　「惜寸陰」

役員（尾崎蒼石 選）

祥鳳

知了

容庸

縁

葭舟

○村田祥鳳　高野弘深
○寺田知了　吉田宗里
○木村容庸　土井青雅
○山吹縁　浅野道男
○平中葭舟　津田秀鳳
宮野宗雄　永野草翠
松本弘碩　山崎井泉
片畑仁美　計五九人

三字印の場合、一行目に二字にするか二行目を二字にするかであるが、今回の課題では半々位であった。また陰字は篆書になると陰となることもあり、優秀作の中でも三氏がこれを用いて佳印とした。また、余白をどこにもってくるかになって優劣が分かれた。

常任委員（石原豊玉 選）

惠子

悦治

黄瑞

雅好

五岳

○永井惠子　澁谷春壽
○兼子悦治　池谷宝樹
○堤黄瑞　西岡貴美子
○真田雅好　岡崎戯石
○小松五岳　白幡雪峰
武田黎秀　青山正人
田辺碧水　伊谷昌子
永田乾石　計四二人

（三字文）布字構成に苦労している。印篆調の作品が多く見られた甲骨・金文は、いまいちか？最初の一行後の一行どちらを、一字の構成にするかで全体の感じが変わってくると思います。先人の作品を、参考に、勉強してください。

委員（出田塘葭 選）

寛明

正義

良孝

勝山

啓志

○茂中寛明　浅井賀子
○森下正義　尾畑翠庵
○相川良孝　松村信夫
○大野勝山　寺地寿和
○髙木啓志　八木正明
中島幸園　服部和彦
中本管玉　大芦卿雲
植田杏芽　計四四人

押印、特に印泥のつきが悪い作品が多く見うけられました。協会の印箋は押印しやすいですし、細心の注意を払って下さい。章法に工夫が見られ、上下左右の文字に関連性を持たせようとする作品が多く、好感を持ちました。

会員（大村雪陵 選）

閑蜻

哲幸

草心

龍泉

惠子

○馬場閑蜻　小林媛瑤
○吉田哲幸　庄田真紀子
○吉田草心　伊藤光崖
○池内龍泉　久郷三雄
○大喜多惠子　川野蘇晨
本間まゆみ　西田のり昭
林正樹　平子正江
城本朴園　計三四人

今回の三文字課題で一文字を長く伸ばす構成に個性が表われ、空間をうまく表現されている佳作が沢山ありました。押印もほとんどの方がかすれも無く、しっかり力強く押されており、意識の高さが伺うことが出来ました。

4月課題　「茂密雄強」

役員（井谷五雲選）

井泉

桂舟

草翠

清苑

容庸

○山崎井泉　寺田知了
○岡田桂舟　福谷華紅
○永野草翠　安井芳泉
○松本清苑　平中葭舟
○木村容庸　畑間青露
宇於崎碧峯　浅野祥雲
名倉克彦　中本管城
坂正歩　計六四人

さすがに役員クラスの作品は、単に字書より文字を拾って並べた、というものは少なく、質の高さを感じました。それだけに制作意図や意志に次元の高さが今後は要求されます。「印外求印」これ蓋し名言と思われます。

常任委員（奥田晨生選）

五岳

桂峰

貴美子

悦治

宝樹

○小松五岳　奥島極浦
○鈴木桂峰　番定静山
○西岡貴美子　田辺碧水
○兼子悦治　堤黄瑞
○池谷宝樹　金井榴華
岡崎戯石　田中紅珠
白幡雪峰　武田黎秀
西野克衛　計三八人

四字句の比較的纏め易い印文。その為か多くは平易に流れ平凡な印となったようです。白川博士の字統に「金文での彊と強は別義だが漢碑には強、彊を同義に用いる」とあります。画数の多い彊を使い疎密を明確にした作品が印象に残りました。

委員（梶川久美子選）

紅霞

浩二

信夫

寛明

良孝

○藤田紅霞　大崎渓臼
○岡本浩二　中島幸園
○松村信夫　大野勝山
○茂中寛明　田中滋
○相川良孝　山杉博子
袴田惠理子　池田叡花
中本管玉　青木和馨
山崎游石　計四三人

今月は課題の意味どおり行間が緊密で力強い作品が多く見られた。しかし、折角の力作も何点かの作品が誤字で残念な結果に！一文字の流れを理解して刻してもらいたい。

会員（北室南苑選）

青榴

勝竹

隆夫

正江

哲幸

○松島青榴　池内龍泉
○広森勝竹　誤品石
○秋吉隆夫　吉田草心
○平子正江　小出武
○吉田哲幸　髙橋子路
岡本君代　林正樹
大喜多惠子　川野蘇晨
城本朴園　計三四人

「雄」の篇の下部の口はロではなく、右の変化したものです。従って縦画の上部は突き出ると誤字になります。その他字形に関する注意を充分にすることが大切であることを痛感します。

5月課題　「游目」

役員（喜多芳邑選）

知了

緑

祥雲

道男

宗雄

○寺田知了　山崎井泉
○山吹緑　萬谷碧凰
○浅野祥雲　古瀬章石
○浅野道男　古野燕安
○宮野宗雄　平中葭舟
松本清苑　津田秀鳳
福谷華紅　南敏子
木村容庸　計五八人

流石に役員の先生方の作、安定し完成度の高いものが多くありました。印文の為か古鉨風のものが多いのは予想されましたが、あまりにも多かった気がします。予想を裏切った印稿による佳作が少なかったことを少し残念に思っています。

常任委員（草田翠苑選）

喜雨

黄瑞

芳翠

忠義

宝樹

○井畑喜雨　中井榮子
○堤黄瑞　永井恵子
○向畑芳翠　堂守唯文
○髙橋忠義　小松五岳
○池谷宝樹　安西幸恵
伊谷昌子　川栄玉峯
兼子悦治　平岡貴美子
武田黎秀　計四一人

今回感じた事は、実力の差が大きかった様に思います。たとえば文字の統一性が欠けていたり、バランスが悪かったり…。もう少し、先代の印人の印譜等を学ぶ事が大切です。

委員（熊本夕生選）

管玉

叡花

萩露

翠庵

英昭

○中本管玉　藤田紅霞
○池田叡花　寺地寿和
○大塚萩露　中島幸園
○尾畑翠庵　袴田惠理子
○小林英昭　壹岐玲風
香川公子　栗永美舟
茂中寛明　田中滋
矢持秀峰　計五〇人

游と目の空間のバランスや目の線の方向の変化と調和など、印篆などでは難しかったということでしょう。金文での作品が大半を占めていました。金文の豊かな造形をうまく表現するには書の力が不可欠です。

会員（田中修文選）

幽篁

光崖

浩登

草心

惠子

○遠藤幽篁　松島青榴
○伊藤光崖　村田昇治
○久下浩登　池内龍泉
○吉田草心　秋吉隆夫
○大喜多惠子　髙橋子路
藤田泰山　浜戸三徳
竹本穂汀　國本学
佐野真咲美　計三四人

以前の会員作品といえば、印篆・小篆が多くを占めていましたが、今回は書体の豊富さと章法を工夫した作品が多く好感を持ちました。特に上位作品で朱白相間法の作は「はっ」とする新鮮さを覚え嬉しく感じました。

6月課題　「沈著痛快」

役員（酒居石荘 選）

青露

容庸

芳泉

素翠

六朗

○畑間青露　松本清苑
○木村容庸　正和杏葉
○安井芳泉　山村千秋
○宮越素翠　川崎白水
○松永六朗　内田真弓
福谷華紅　岡田桂舟
寺田知了　大城容子
山吹緑　計六〇人

今回は四字句を普通に配字し奇をてらったものはなかったが、誤字や？のつく字が気になった。特に「快」を「快」と見間違えたのが数点あり注意喚起促したい。文字を素材に表現していることを再確認してください。

常任委員（堤白遊 選）

黄瑞

極浦

五岳

忠義

貴美子

○堤黄瑞　青山正人
○奥島極浦　堂守唯文
○小松五岳　井畑喜雨
○高橋忠義　永田乾石
○西岡貴美子　田中紅珠
川栄玉峯　岡崎戯石
伊谷昌子　田村稲廬
白幡雪峰　計四一人

白文印が七割位で朱文印が少なかった。著の扱いを工夫されていたが少し大きくなってしまったり又反対に細くなりすぎた作品があった。朱文と白文の印をまぜたり、罫を入れたりした作品も見られたが、全体によくまとまっていた。

委員（戸出九廬 選）

恵理子

啓志

蒼樹

登雲

浩二

○袴田惠理子　浦田紫雯
○高木啓志　八木壽石
○大林蒼樹　中本管玉
○山下登雲　山中徹人
○岡本浩二　相川良孝
服部和彦　田中滋
壹岐玲風　松村信夫
尾畑翠庵　計四二人

小篆、印篆を使用した作品が多く、白文・朱文とも安定した構成で佳作が多く見られました。その反面、文字に変化がつけ難かったのか、思いきった変化のある作品が少なく残念に思います。

会員（中村葉舟 選）

草心

光崖

真咲美

凌慶

武

○吉田草心　城本朴園
○伊藤光崖　広森勝竹
○佐野真咲美　池内龍泉
○岩本凌慶　平子正江
○小出武　秋吉隆夫
井形淳　亀田孝志
松島青榴　吉田哲幸
川野蘇晨　計三五人

白文の作品に佳作が多くありました。快字に問題のある作品が数点ありました。丁寧に検字をする事を心掛けたいものです。

7月課題　「字有九徳」

役員（小朴圃 選）

華紅

六朗

沙舟

仁美

碧凰

○福谷華紅　浅野祥雲
○松永六朗　名倉克彦
○丸山沙舟　宮越素翠
○片畑仁美　木村容庸
○萬谷碧凰　近藤胡蝶
畑間青露　浅野道男
安井芳泉　古瀬章石
田原呉山　計五七人

字を宇と刻した者七名、字を守と刻し、宇と記した者一名。
徳を得と刻した者一名。
宇有九徳では、文字の意ではなくなる。章法の工夫の前に印文の意味を感じとって奏刀せねば、学識を問われることとなる。

常任委員（長谷川帰海 選）

芳翠

忠義

秋鹿

榮子

唯文

○向畑芳翠　兼子悦治
○髙橋忠義　杉江畦石
○井上秋鹿　伊谷昌子
○中井榮子　永田乾石
○堂守唯文　青山正人
白幡雪峰　岡崎戯石
金井榴華　山口藤華
川栄玉峯　計四〇人

何故か字と宇との間違いが数点ありその中に秀作が有ったのに惜しまれる。画数の少ない印文だったので界線を用いたり工夫された作が多かったがこのクラスになると、刀痕、線の抑揚をもっと見せて欲しいと思います。

委員（長谷川拓石 選）

浩二

信夫

管玉

正義

杏芽

○岡本浩二　大野勝山
○松村信夫　大芦卿雲
○中本管玉　髙木啓志
○森下正義　壹岐玲風
○植田杏芽　松波白龍
中島幸園　山中徹人
池田叡花　服部和彦
浦田紫雯　計四四人

押し印にむらがあったり、印面の彫り残しが気になります。また「宇」と「宇」の間違いが五点有りました。朱・白文印は同数で、印篆作品が大多数でした。布字や刻は出来ているので、作る前に誤字確認の為 課題文字を見直したいものです。

会員（古溝幽畦 選）

幽篁

凌慶

松露

龍泉

哲幸

○遠藤幽篁　井形淳
○岩本凌慶　小出武
○北出松露　樅山美由紀
○池内龍泉　久下浩登
○吉田哲幸　指輪桂舟
小林美香　藤田泰山
広森勝竹　誤晶石
伊藤光崖　計三九人

今回の印文は甲骨から印篆まで確かな出典があるので白文・朱文と多種多様な作品が散見できた。印篆や小篆を扱った作品には安定感があったが、金文や甲骨を扱った作品にはやや不安な点もある。臨書を通し造形を確固たるものにして欲しい。

第三十七回讀賣書法展 審査報告

讀売俊英賞　井後雅堂

讀売奨励賞　遠藤米子人　古野燕安

特選　大林蒼樹　大原誠　木元美英

秀逸　井野大輔　浦岡香之　木村佳史　妻鳥明子　堂守唯文　中野聡
中森紫香　西岡青淡　西口青咲　長谷川拓石　坂正歩
松井壹邨　松本清苑　吉原愛璃

入選　青木和馨　赤松康照　安達卿仙　池田謙三　池田叡花　石川無外
石崎魯行　石留之然　石原翠雲　泉井墨　伊谷昌子　一田朝野
井上秋鹿　井畑喜雨　井本雅士　岩本凌慶　大野勝山　岡本浩二
奥島極浦　奥島春泠　加納芳秀　貴島小舟　北野京子　越野得月
小林生良　坂田春徑　庄田真紀子　杉本加世　平冨耀　田中紅珠
寺地寿和　戸出紅桃　中井榮子　中嶋清華　永田佳子　長谷雪梅
乃村翠琴　橋本游月　花房浩佳　檜原邨　平中葭舟　福谷華紅
藤井郁子　藤澤涼子　藤田紅霞　細川恵苑　堀田治　眞嶋寧々
松崎敏子　松本峰舟　丸山沙舟　萬谷碧凰　三浦昆遥　南田陽苑
三好和生　村瀬光泉　村松瓊玉　薮下瑛琴　山内昂波　山崎芳園
山本杏華　矢持秀峰　吉永小依

百年印証 萬印楼当代篆刻芸術大展 審査結果

陳介祺賞　平中葭舟

優秀賞　山本寿法　鬼頭紅節　川端不條　東尾高岳　渡邉尚石　大田桂翠

入選　香取桃水　西口青咲　花房浩佳　坂正歩　山吹縁　萬谷碧凰
奥島極浦　白幡雪峰　南田陽苑　大林蒼樹　小林生良　井野大輔
久下酔夢　杉本加世　矢羽野徹也　川野蘇晨　安井芳泉　松本清苑
中島幸園　寺地寿和　松浦典子　大城容史子　巽聖石　石川無外
松本艸風　畑間青露　早川聰芬　関踏青　戸出九廬
小上玉菡　岸村爽風

◁審査担当の先生方

◁審査風景

■展覧会のご案内

梶田稲州遺作展 併催 第九回稲香印社展　令和三年十月八日（金）～十日（日）
名古屋市市政資料館

第十九回 蒼文篆会展　十一月二十一日（日）～二十三日（火）大阪産業創造館

第十四回娯惲文会展　十二月十日（金）～十二日（日）
有志展 木元美英・井筒温子 二人展／特別展観「南木コレクション《楠瀬日年展》」
兵庫県民アートギャラリー（兵庫県民会館二階）

第十四回 長修会展　令和四年一月二十八日（金）～三十日（日）
半田市福祉文化会館（雁宿ホール）講堂

第二十七回 一隅會展　令和四年一月二十八日（金）～三十日（日）
アートホール神戸（兵庫県学校厚生会館）

第七回 伍葉展　令和四年一月二十八日（金）～三十日（日）神戸元町みなせ画廊

第六十七回 全関西美術展　令和四年二月五日（木）～十五日（火）大阪市立美術館

※本年度の社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください